

缶詰工場の運営体制は

黒潮町直営で行う



しもむら かつゆき 議員 下村 勝幸

である。9月議会には議員にも試食してもらいたいと考えている。12月末までにバイヤー向けのテストマーケティングを終え、来年2月中旬に最終イメージ品の完成をめざす。担当職員も8月中旬以降に缶詰製造等の短期講習に参加させる。

問 今回の新産業創造事業での経営戦略と売上予測並びに運営スケジュールはどうなっているのか。

答 大西町長

缶詰の本工場規模等の決定は本年度中に行う予定。黒潮町内に工場を建設し、想定では3億5千万円から4億円の売上規模を目指す。現在は試作品を製作中。6月末までに44品のサンプル商品を仕上げの予定。その後缶詰事業の商品企画書案が出来上がる予定

問 被災地での視察も行い、販売戦略を練っていると思うが、黒潮町を防災に特化した町として、トータルコンセプトで展開する方法を考えてみてはどうか。

答 大西町長

この事業は、黒潮町が全国的に注目されているうちに実施したいと考えている。商品は、5つのコンセプトをベースに計画し、製造する缶詰は非常食から日常食まで考えて

いる。この工場は黒潮町直営での運営を考えているが、収益事業なので、法的に問題がないか確認をとっている。

被災地では3、4日目に入ると被災者の間に口内炎が発生した。こうしたものをカバーできるような機能的缶詰商品も考えたい。しかしながら、備蓄品の中でも缶詰が食べられたのは、かなり後になってからであるので、そういった部分についても対策を考えたい。

様々な情報は時期をみながら展開していくが、将来的には防災全体で総合的に進める方法も検討している。

情報提供

ホームページの運用は職員皆で対応する

問 本当に交流人口を増やしたいと考えたホームページになっているか。特に観光部分が弱く感じるがどうか。

答 武政総務課長

近隣の自治体に比べると良く言えばシンプル悪く言えば、少し見劣りするようになる。賞味期限切れの情報が残っている現状がある。今後は職員全体で改善に取り組み、ホームページの再構築と運用面について検討していきたい。

問 告知端末情報とホームページが連携できていない。申請書類も自分で印刷できるようにすべきではないか。

セキュリティにも心配な部分がある。外部への診断依頼を行ったことがあるか。

答 武政総務課長

現在は告知端末とホームページが連携する体制はできていない。今後は両方で連携するように考えていきたい。PDF等で印刷できる体制も整えたい。今の体制では、ミスマッチやセキュリティは指摘があるまでわからない。外部へ診断依頼を行ったことはない。



黒潮町公式ホームページのトップページ